

小紋潤君ががんばってくれたな。

晋樹 編集実務は土日を返上して小紋君がやってきました。

幸綱 表紙も立派だったね。

晋樹 装幀は長尾信(高麗隆彦)さんです。

幸綱 俵万智の『サラダ記念日』が八七年だから、その五年くらい前です。これは僕が編集長になってからでいちばん大きな記念号だったと思います。一〇〇〇号のときは祝賀会も帝国ホテルで、大がかりな会をやったよね。

斎藤 シャンソン歌手の石井好子、日本舞踊の藤間流の方とかが来て。

晋樹 及ばずながら僕が司会を進行させていただいた。石井さんが歌う時のタイミンがなかなか合わなくて。

幸綱 うるさかったね。

晋樹 はい。もう一つ印象深かったのは、初めに伊藤嘉夫先生が挨拶されたとき、一〇〇〇号の歴史を一分ぐらいでまとめられた。見事なまとめ方です。

大野 大岡信さんや斎藤史さんの記念講演(学士会館)、また山本健吉、前川佐美雄が祝賀会(帝国ホテル)に来たと、『心の花』一〇〇〇年史補遺(二〇〇〇年記念号)にあります。

斎藤 私は入ってすぐでしたが、こんな立派な式に遭遇していいんだろうかと思っただけでした。

晋樹 大きな記念会を連続してやったんだね。

幸綱 そう。七月三十一日に帝国ホテルで記念祝賀会をやって、八月一日に野口英世記念館で歌壇の若い世代を集めて記念会をやったんだね。にぎやかな歌会だったという記憶がある。

晋樹 一〇〇〇号の祝賀会の時、葛原妙子さんが来ておられて、僕が「あとで一言、スピーチをお願いします」と言ったら、しばらく後で逃げちゃった。そういうことが嫌いだっただろうだ。まさかと思った。

この年、幸綱さんは評論集『作歌の現場』、伊藤一彦さんは『火の橋』を出しています。

### ☆一九八三年〜一九八六年

幸綱 一〇〇〇号記念号の翌年、一九八三年の関西合同歌会が岩国でありました。まだ全国大会が開かれる前、プレ・全国大会ということで、関西の各歌会によびかけての集まりだった。西田郁人、又野妻さんらが準備してくれました。竹山広さん、築地

正子さん、伊藤一彦君も参加してくれています。

一九八四年十月に石川一成さんが亡くなります。八月に『沈黙の火』を出してすぐに。五十五歳でした。「心の花」にとつて石川さんは大事な人でした。

晋樹 石川さんの思い出はたくさんあるんです。湘南高校で野球部の顧問をやっていたんだ。石川さんが「晋樹さん、高校球界にえらいピッチャーが現れた。とても当たらない」と言ったのが江川卓だった。それが昭和五十三年ころ。『麦門冬』を出される三、四年前です。後に満を持して『沈黙の火』という歌集を出される。僕の自宅に勝谷綾子さんと一緒に来てくれて、お祝いの会もちよこつとやったんです。それから二か月後くらいに不慮の事故で急逝された。

『沈黙の火』が出て、藤沢の、石川さんの教え子さんとかかわりのある割烹で、湘南の会の人たちと石川さんを囲んでお祝いしようとしたら、乾杯のお酒が水だった。後から思えばたいへん不吉なこと、二か月後にああいう事故に遭ってしまわれた。当時、島田修二さん、片山貞美さんなどが、「これからの歌壇の要をなくしてしまつた」と慨嘆しておられたことが印象に残っ